

川崎競輪場再整備基本計画

平成 22 年 9 月

川 崎 市

目次

はじめに.....	1
1. 川崎競輪場再整備の考え方.....	2
2. 競輪場再整備(第1段階のコンパクト化)の基本方針について.....	5
(1) メインコンセプトⅠ 【公園との一体感を感じられる空間づくり】	7
(2) メインコンセプトⅡ 【持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり】	9
3. 競輪場再整備による施設の考え方	11
(1) 市民利用の推進に向けた施設づくり	12
(2) 競輪事業の持続的な運営に向けた施設づくり	13
(3) 再整備後の競輪場施設配置の変化.....	15
(4) 再整備後の競輪場のイメージ	17
4. 市民利用について.....	18
(1) 市民向けの多様なイベントの開催.....	19
(2) バンク内の芝生広場の開放.....	20
(3) 市民の健康増進への取組.....	20
(4) 市民利用と競輪事業運営との調整.....	20
5. 再整備後の競輪事業運営について	21
(1) 再整備による経営体質強化	21
(2) 競輪場の魅力の維持・向上.....	21
(3) 再整備後の収益見通し	22
6. 「第1段階のコンパクト化」整備のスケジュール及び財源.....	23
(1) 再整備のスケジュール	23
(2) 再整備の財源.....	24
7. 将来のコンパクト化.....	25
8. 今後の事業スケジュール.....	26

はじめに

川崎競輪場は、昭和24年に開設して以来、約60年間の長きにわたり本市財政に大きく貢献するとともに、余暇活動の一形態である大衆娯楽としての役割を担ってきたところです。

さらに、平成12年にオリンピック種目に競輪が自転車競技「ケイリン」として採用され、オリンピックにおいて競輪選手がメダルを獲得するなどの活躍が見られるなど、近年、競輪のサイクルスポーツとしての位置づけが高まっています。

また、富士見周辺地区には、川崎競輪場のある富士見公園を中心に、様々な市民利用施設が集積していますが、川崎競輪場や川崎球場などのレクリエーション施設がその多くを占め、公園本来の緑地や広場が少なく、都心における総合公園としての機能回復が求められています。

このような中、川崎競輪場については、過去に公園区域外への移転の可能性について検討を重ねてきましたが、富士見公園外への競輪場の移転については事業採算面や交通アクセス面などの課題があることから断念した経緯があります。

こうした状況を踏まえ、本市では平成20年3月に「富士見周辺地区整備基本計画」を取りまとめ、その中で、川崎競輪場については「公園との調和に配慮した上で、既存バンクを活用し、現位置でコンパクト化をするとともに、できる限り多目的な活用ができることをめざす」としました。

さらに、基本計画を踏まえ、本市では、市民意見募集を経て平成22年3月に「富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方(改訂版)」を取りまとめました。その中で、川崎競輪場については「持続可能な事業運営をめざし、コンパクト化に向けた段階的な整備を行う」「多目的な市民利用として、イベント利用や市民開放などを検討」など整備の考え方について示したところです。

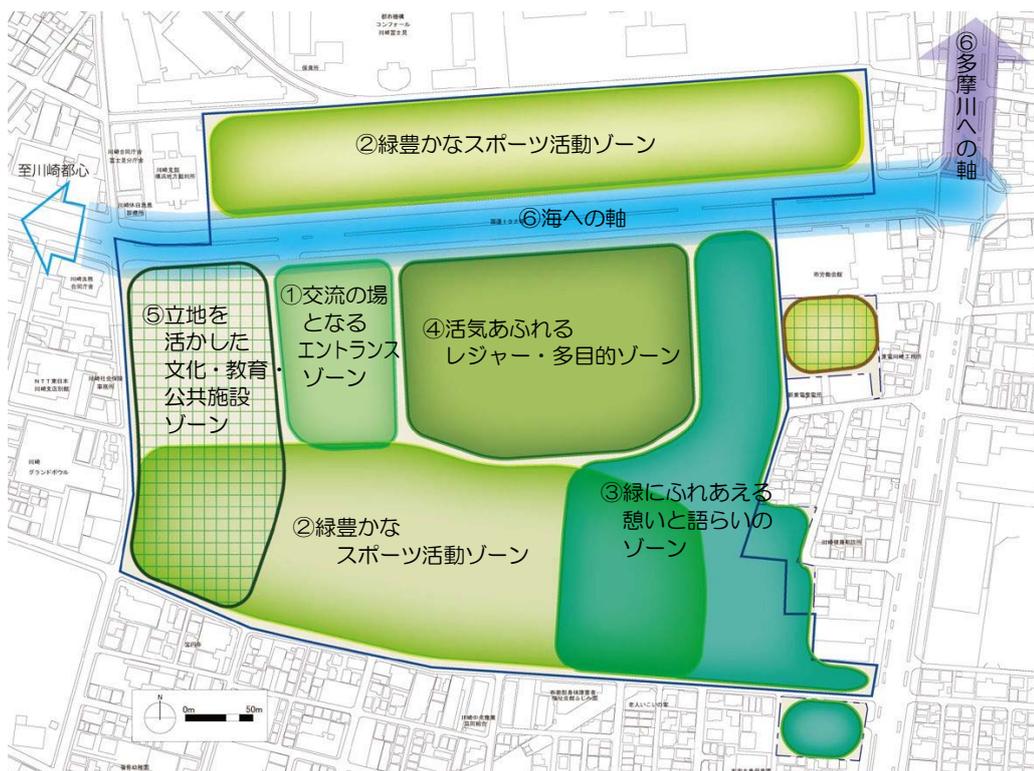
これら「富士見周辺地区整備基本計画」及び「富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方(改訂版)」の内容を踏まえ、川崎競輪場の再整備の基本的な考え方を示し、計画的な整備を推進することにより、今後も競輪事業の役割である地域社会及び本市財政への貢献を引き続き行い、かつ、富士見周辺地区の再生に寄与するため、平成22年6月に「川崎競輪場再整備基本計画(素案)」を取りまとめ、その後、パブリックコメント手続を通して市民や関係団体等の方々から幅広く意見を伺ってきました。

この「川崎競輪場再整備基本計画」は、市民や関係団体等の方々から幅広く意見を伺った結果を反映し作成させていただいたものであり、今後、この基本計画に基づき川崎競輪場の再整備に取り組んでいきますので、市民及び関係者の方々の御理解と御協力をお願いいたします。

1. 川崎競輪場再整備の考え方

川崎競輪場は、平成20年3月に策定した「富士見周辺地区整備基本計画」において、富士見公園における「活気あふれるレジャー・多目的ゾーン」として位置づけており、その整備の方向については、「公園との調和に配慮した上で、既存バンクを活用し現位置でコンパクト化するとともに、できる限り多目的な活用ができることをめざします。」としています。

富士見公園のゾーニング図(富士見周辺地区整備基本計画から抜粋)



さらに、平成22年3月に策定した「富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方(改訂版)」では、川崎競輪場について「事業費・持続的な事業運営・財源確保等を総合的に判断し、競輪施設等整備事業基金を財源として、既存バンクを活用しながら、第1段階のコンパクト化と将来のコンパクト化という段階的な整備を進め」、「第1段階のコンパクト化は富士見通り側を除く敷地の一部を公園区域に編入し、メインスタンドの耐震化を実施」することなどを、競輪場再整備の考え方として示しています。

「富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方(改訂版)」(平成22年3月策定)
川崎競輪場整備の考え方・整備の考え方を踏まえた基本配置図(イメージ図)

(1) 基本的な考え方

● 段階的コンパクト化を実施

① 第1段階のコンパクト化

富士見通り側を除く敷地の一部を公園区域に編入し、メインスタンドの耐震化を実施

② 将来のコンパクト化

状況を踏まえながら課題を整理し、さらなるコンパクト化を実施

(2) 段階的コンパクト化

● 将来的に基本計画において想定していた規模を公園区域として編入することを基本

・ 将来必要な公園空間等の確保に配慮した配置とする

● 多目的な市民利用として、イベント利用や市民開放などを検討

● 愛称の検討などを含めたイメージアップの取組を検討

● 防災等のまちづくりにおける貢献について検討

● 持続可能な事業運営をめざし、コンパクト化に向けた段階的な整備を行う

・ 各段階において大規模集客施設としての安全性に配慮した計画とする

● まちづくりの視点や長期的展望を視野に入れ、将来の競輪場のあり方を継続的に検討

(3) 公園整備との連携

・ 公共交通機関の活用を推進するバスロータリー機能は競輪場の西側に配置する

・ 富士見公園のエントランスとなる公園空間の景観形成に配慮



以上のように、「富士見周辺地区整備基本計画」及び「富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方(改訂版)」における競輪場再整備の考え方を整理すると、次のとおりとなります。

- ① 公園との調和に配慮すること
- ② 既存バンクを活用し現在地でコンパクト化すること
- ③ コンパクト化により敷地の一部を公園区域に転換すること
- ④ 多目的な利用が可能となる施設をめざすこと
- ⑤ 「第1段階のコンパクト化」と「将来のコンパクト化」の段階的な整備を行うこと
- ⑥ 持続可能な事業運営をめざした整備を行うこと
- ⑦ メインスタンドを耐震化すること
- ⑧ 防災等のまちづくりに貢献すること
- ⑨ 競輪施設等整備事業基金を財源とすること
- ⑩ イメージアップの取組を検討すること
- ⑪ 将来のあり方を継続的に検討すること

これらを踏まえ、川崎競輪場再整備のメインコンセプトについては、次の2つとします。

川崎競輪場再整備のメインコンセプト

『Ⅰ. 公園との一体感を感じられる空間づくり』

『Ⅱ. 持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり』

第1段階のコンパクト化で、

- ◆ 「公園と共存・調和する機能を有する競輪場」
- ◆ 「多目的な利用が可能で市民に親しまれる競輪場」
に生まれ変わることで
- ◆ 「魅力と活気あふれた施設」となり
- ◆ 「サイクルスポーツによる賑わいを創出する」
ことで地域の魅力を高め

『富士見周辺地区のまちづくりに貢献します。』

2. 競輪場再整備（第1段階のコンパクト化）の基本方針について

競輪場再整備に当たっては、メインコンセプトである「公園との一体感を感じられる空間づくり」、「持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり」の実現のために、10のサブコンセプトに基づき、第1段階のコンパクト化を進めていきます。

I. 公園との一体感を感じられる空間づくり

- ① 公園と調和した市民が入りやすい環境づくり
- ② 市民と競輪ファンが楽しめる施設づくり
- ③ 市民開放・市民利用の推進
- ④ スポーツ・健康増進エリアとしての施設づくり
- ⑤ 公園の防災機能充実に向けた貢献

II. 持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり

- ① 市財政貢献に向けた収益力の強化
- ② 川崎競輪場の魅力の維持・向上
- ③ 集客力に応じた施設の再編・最適化
- ④ 事業内容に即した機能の集約・効率化
- ⑤ 環境に配慮した施設・設備のリニューアル

●メインコンセプト ～ 競輪場再整備は、既存バンクを活用し、次のメインコンセプトに基づき段階的に整備を行い、市民に親しまれる競輪場として富士見公園との共存・調和を図り、魅力と活気あふれた施設としてサイクルスポーツによる賑わいを創出するなど、富士見周辺地区の魅力を高め、まちづくりに貢献します。～

**I 公園との一体感を
感じられる空間づくり**

**II 持続可能な事業運営の
確立に向けた施設づくり**

○第1段階の
コンパクト化

公園と共存・調和する
機能を有する競輪場へ

●サブコンセプト

●サブコンセプト

①

公園と調和した市民が入りやすい環境づくり

②

市民と競輪ファンが楽しめる施設づくり

③

市民開放・市民利用の推進

④

スポーツ・健康増進エリアとしての施設づくり

⑤

公園の防災機能充実に向けた貢献

①

市財政貢献に向けた収益力の強化

②

川崎競輪場の魅力の維持・向上

③

集客力に応じた施設の再編・最適化

④

事業内容に即した機能の集約・効率化

⑤

環境に配慮した施設・設備のリニューアル

多目的利用が可能な
市民に親しまれる競輪場へ

○将来のコンパクト化

- メインスタンドなどの建替により、さらなるコンパクト化の実施及び多目的利用の推進
- 持続的な競輪事業の運営について継続的に検討

(1) メインコンセプトⅠ

【公園との一体感を感じられる空間づくり】

メインコンセプトⅠの考え方

- 市民と競輪ファンのどちらにも親しまれる競輪場づくりを進めることにより、富士見公園との共存・調和をめざします。
- 市民の競輪場利用・開放を進めるとともに、競輪場敷地の公園敷地への一部転換を実施し、魅力と活気あふれた施設としてサイクルスポーツによる賑わいを創出し、富士見周辺地区の魅力を高め、まちづくりに貢献します。

競輪場再整備に当たっては、「富士見周辺地区整備基本計画」が、都心における総合公園にふさわしい富士見公園の再生をめざし、「緑、活気、憩い、ふれあいのある、都会のオアシス・富士見公園」を整備のコンセプトとして掲げていることを踏まえ、「公園との一体感を感じられる空間づくり」をめざした各種整備を実施していく必要があります。

そのため、競輪場のコンパクト化により市民に親しまれる公園空間を可能な限り創出するとともに、再整備後の競輪場は多目的な市民利用が可能となり、競輪場の施設やバンク内の有効活用などによりイベントでの利用や市民開放を進め、市民に親しまれるための工夫や、愛称の検討などを含めたイメージアップ、さらには防災等のまちづくりににおける貢献をするために、5つのサブコンセプトに基づき競輪場の再整備を進めていきます。

サブコンセプト

- ① 公園と調和した市民が入りやすい環境づくり
- ② 市民と競輪ファンが楽しめる施設づくり
- ③ 市民開放・市民利用の推進
- ④ スポーツ・健康増進エリアとしての施設づくり
- ⑤ 公園の防災機能充実に向けた貢献

① 公園と調和した市民が入りやすい環境づくり

市民が富士見公園と競輪場との間に空間の連続性を感じられるよう、競輪場のエントランスを整備し、場内の緑化を推進するとともに、境界部分の設定についてもセキュリティに配慮しつつ公園との調和を図っていきます。

特に西エリアは、富士見周辺地区整備基本計画における富士見公園全体のエントランス・ゾーンに面していることから、競輪事業の機能を維持しつつ公園のアメニティ機能を有したエリアとして、公園利用者が入りやすく、利用しやすい施設の整備を進めます。

また、施設の再編整備を進めることにより競輪場敷地の一部(約7,500㎡)を公園敷地に転換し、公園機能の再生に寄与していきます。

なお、富士見公園の整備に当たっては、利用者の公共交通機関の活用を推進するため、公園利用者と競輪ファンがともに利用できるようなバスロータリーの競輪場西側への設置を進めます。

さらに、競輪場周辺の安全の確保、環境美化につきましては、現在、実施している競輪場周辺警備や周辺道路清掃などの取組を、今後も進めていきます。

② 市民と競輪ファンが楽しめる施設づくり

市民が気軽に立ち寄れる競輪場とするため、公園との境界を整備するとともに、市民や競輪ファンがともに居心地よく感じられる空間づくりをめざして、開放感のある飲食店の整備を進めていきます。

さらに、市民が楽しめる空間としての広場の整備を進めるとともに、競輪場をより市民に親しまれる施設とするため、競輪場の愛称についても検討を進めていきます。

③ 市民開放・市民利用の推進

競輪場施設の多目的な利用を図るため、競輪場内の広場やバンク内の整備を進め、その他の施設の市民利用についても検討を進めていきます。

④ スポーツ・健康増進エリアとしての施設づくり

市民がサイクルスポーツをより身近に感じられるように、競輪場を活用したサイクルスポーツ普及への取り組みを進めていきます。

また、スポーツ施設である競輪場の機能を活かし、市民の健康増進をめざした事業の実施や施設利用の推進を行っていきます。

さらに、オリンピック競技種目の1つとなっているスポーツ競技「KEIRIN」観戦施設としてのレジャーゾーンをめざすとともに、羽田空港の再拡張・国際化や臨海部の産業観光の推進なども視野に入れ、競輪場への若者や外国人観光客の誘致を進めていきます。

⑤ 公園の防災機能充実に向けた貢献

川崎競輪場は広域避難場所として指定されていることから、新施設建設や耐震化工事を実施することにより防災機能の充実に取り組み、広域避難場所としての市民受け入れ態勢の整備強化を進めていきます。

(2) メインコンセプトⅡ

【持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり】

メインコンセプトⅡの考え方

- 将来も川崎市財政に貢献する事業であり続けるための再整備を段階的に行い、富士見公園との共存・調和を推進します。
- また、施設の再編整備を行うことにより事業の効率性を高めるとともに、収益力の向上を図り、経営体質を強化します。

川崎競輪場は、昭和24年の開場以来、その収益については、教育施設をはじめとした公共施設整備などの様々な事業にあて、市の発展に大きな役割を果たし、長期にわたり黒字経営を実現してきました。

しかしながら、競輪を含めた公営競技を取り巻く経営環境は非常に厳しい状況にあります。

そのため、施設の再編整備を行うことにより事業の効率性を高め、収益力の向上を図り、競輪事業の経営体質を強化することで、将来も川崎市財政に貢献をするために、5つのサブコンセプトに基づき競輪場の再整備を進めていきます。

また、公園敷地に転換する競輪場敷地(7,500㎡)にある競輪場施設を除却するため、新たな施設を整備する必要があります。

サブコンセプト

- ① 市財政貢献に向けた収益力の強化
- ② 川崎競輪場の魅力の維持・向上
- ③ 集客力に応じた施設の再編・最適化
- ④ 事業内容に即した機能の集約・効率化
- ⑤ 環境に配慮した施設・設備のリニューアル

① 市財政貢献に向けた収益力の強化

将来も川崎市財政に貢献するため、競輪事業の収益力強化を図ります。

現在、川崎競輪場では、他場で開催する車券を川崎競輪場で販売する場外発売に伴う施設使用料などの収入が3億円強となっており、本場開催の売上が減少する中、**場外発売は重要な収益源**となっているところです。このことから、川崎競輪場の収益向上策として、場外発売の積極的展開が重要となっています。

そのため、再整備により、主要な収益源である場外発売を効率的に実施する環境を整備し、**場外発売を積極的に実施**していきます。

また、競輪場コンパクト化に伴う新選手管理棟の整備により、高収益を見込める特別競輪のG Iレースの開催を招致できる環境を整えていきます。

② 川崎競輪場の魅力の維持・向上

再整備により、川崎競輪場が現在持っている魅力の維持・向上を進めるとともに、新たな競輪場の魅力の創造を行います。

川崎競輪場の最大の魅力である「首都圏の大規模ターミナル駅である川崎駅から徒歩圏内に立地しているというアクセスの良さ」を維持するため、現在地での再整備を実施していきます。

また、川崎競輪場の場内で営業している飲食店の豊富さと味の良さは、他の競輪場に対する優位点であることから、再整備後についても、その魅力を維持・向上していきます。

さらに、川崎競輪場の場内の開放感、その魅力の1つとなっていることから、再整備による施設集約後も、場内に魅力あるオープンスペースを確保していきます。

新たな魅力の創造としては、屋内で投票や飲食を楽しめるよう、競輪観戦環境の整備を進め、川崎競輪場のアメニティをさらに向上していきます。

また、新たな競輪ファンや公園利用者にとって居心地の良い施設環境を提供できるよう、競輪場メインエントランスや西エリアの整備を進めていきます。

③ 集客力に応じた施設の再編・最適化

競輪場を、現在の集客力に応じた規模に再整備し、需要にあった規模の施設運営を行うことで運営コストの低減を図っていきます。

また、敷地のコンパクト化により、修繕費、清掃費、警備費などの経費の節減を図ることができます。

さらに、再整備によって、収容人員を約51,000人から約20,000人に最適化するとともに、発売レースの内容による来場者数の変化に対応した弾力的な施設運用が可能となります。

④ 事業内容に即した機能の集約・効率化

現在、東西エリアに分散して配置している投票所や飲食店を西エリアへ集約することで、競輪場機能の集約・効率化を図っていきます。

投票所については、現在の集客力に応じて窓口数を300窓から250窓に見直し、機能的に配置することで、効率的な運用を可能にします。

⑤ 環境に配慮した施設・設備のリニューアル

メインスタンド耐震化の実施や、選手管理棟の建替など、競輪場再整備により施設・設備をリニューアルし、安全性、機能性の向上を実現します。

さらに、再整備に当たっては、場内の緑化を推進するとともに、オープンスペースに太陽光発電を利用した照明設備を設置するなど、環境に配慮した施設づくりを実施します。

3. 競輪場再整備による施設の考え方

競輪場再整備の基本方針を踏まえ、競輪場再整備の施設づくりについては、次の方向性で進めます。

競輪場を含めた富士見公園の再生に当たっては、市民利用施設等公共施設の再配置・再整備を行い、都市型公園にふさわしい再整備を行っていくことが必要であることから、これらの土地利用を進めていくために、現在の第2種住居地域から商業系用途地域への変更等を検討していくこととしています。

そのため、競輪場の再整備についても、富士見周辺地区の用途地域の変更手続を踏まえながら、事業を推進していくことが必要です。

また、競輪場再整備における具体の施設整備においては、競輪場が都市計画法における都市計画公園の区域内にあるため設計要件などを調整しながら事業を推進していくことが必要です。

施設づくりの考え方

(1) 市民利用の推進に向けた施設づくり

1) 公園との共存・調和の推進

- 富士見公園と調和した競輪場メインエントランスの整備
- 公園のレストハウス機能を有する新施設などの整備
- イベント実施が可能な広場の整備
- 子どもたちが遊べる広場の整備
- 市民の多目的な施設利用の推進

2) 市民のスポーツ・健康増進の推進

- 新選手管理棟内トレーニングルームの市民利用の検討
- イベントなどを通じた取り組みの推進

3) 広域避難場所としての防災機能強化

- メインスタンドの耐震化など
- 防災用備蓄倉庫整備の検討

(2) 競輪事業の持続的な運営に向けた施設づくり

1) 施設の再編・最適化による収益力の強化

- 収容人員の最適化
- 投票窓口数の最適化

2) 競輪場機能の集約・効率化

- コンパクト化により減少する投票所機能及び飲食店を西エリアに集約
- 場外発売を効率的に実施する環境を整備

3) 施設・設備のリニューアル

- メインスタンド耐震化
- 新選手管理棟の建設
- 太陽光発電を利用した照明設備の設置など
- コンパクト化に伴う東西エリアの整備

4) 競輪場のアメニティの向上

(3) 再整備後の競輪場施設配置の変化

(4) 再整備後の競輪場のイメージ

(1) 市民利用の推進に向けた施設づくり

1) 公園との共存・調和の推進

① 富士見公園と調和した競輪場メインエントランスの整備 【西エリア】

競輪場のメインエントランスを、市民が気軽に立ち寄れる、富士見公園と調和した開放感のあるエントランスとして整備します。また、長方形競技場側に面した競輪場の境界の一部を開放可能な形に整備し、公園との調和を進めます。

② 公園のレストハウス機能を有する新施設などの整備 【西エリア】

西エリアは、競輪場メインエントランスに続くバンクに沿った新施設と富士見公園に面した西3号投票所・シアター席（以下「西3号」といいます。）に分けて整備を進めます。

競輪場メインエントランスに続くバンクに沿った位置に新施設を建設し、その1階は天井を高くとり、飲食店、トイレなどを配置し、富士見公園を利用する市民が居心地よく休憩できるスペースを整備します。

また、西3号は、富士見公園全体のエントランス・ゾーンに面しており、公園のアメニティ機能（飲食店、ショップなど）を有する施設を整備する場所として適した位置にあります。

しかし、西3号の前売投票所やシアター席は競輪事業運営において必要な機能であることから、西3号は、当面の間は現状のまま活用し、公園の整備時期と歩調をあわせて公園側からも利用できる機能を有し、かつ、競輪事業でも活用する施設として、公園のエントランスやバスロータリーと一体的に整備することを検討していきます。

③ イベント実施が可能な広場の整備 【西エリア】

様々なイベント実施が可能な常設ステージのあるイベント広場を設けます。

④ 子どもたちが遊べる広場の整備 【バンク内】

バンク内を芝生広場にリニューアルし、子どもたちが遊び、運動ができる広場として活用します。トラックを利用した運動会の実施も可能です。

⑤ 市民の多目的な施設利用の推進

イベント広場やバンク内、スタンドと一体となった多目的な施設利用の推進を進めます。

2) 市民のスポーツ・健康増進の推進

新選手管理棟内のトレーニングルームについて、市民が利用できるように検討を進めます。

自転車教室など市民向けのイベントや自転車競技大会としての利用を通して、市民の健康増進、サイクルスポーツの普及に取り組みます。

3) 広域避難場所としての防災機能強化

① メインスタンドの耐震化など

メインスタンドの耐震化を実施するとともに、バンク内広場の整備や新施設の設置を行うことにより、広域避難場所としての防災機能を強化します。

② 防災用備蓄倉庫整備の検討

再整備により生まれる、東サイドスタンドの下部などのスペースを活用し、防災用の備蓄倉庫の整備を検討していきます。

(2) 競輪事業の持続的な運営に向けた施設づくり

1) 施設の再編・最適化による収益力の強化

① 収容人員の最適化

約51,000人である競輪場の収容人員を、現在の集客力に応じた規模で、かつ、特別競輪のG Iレースを開催できる環境とするため、収容人員約20,000人の施設として整備します。

② 投票窓口数の最適化

現在の川崎競輪場の投票所窓口数300窓を、再整備により機能的に配置し、最大250窓程度に最適化します。

2) 競輪場機能の集約・効率化

観戦環境の向上を図るため、投票機能、飲食機能、レストハウス機能を有した新施設を、競輪場メインエントランスに続くバンクに沿った西エリアに整備します。

① 投票機能

コンパクト化により公園敷地に転換する東・西エリアにある窓口は西エリアに集約します。これにより発売レースの内容による来場者数の変化に対応した場外発売の効率的実施が可能になります。

② 飲食機能

川崎競輪場の魅力である飲食店については、コンパクト化後も既存の飲食店を継続させる必要があります。そのため、コンパクト化により公園敷地に転換する東・西エリアから西エリアに店舗を集約し、公園利用者も楽しめるよう、飲食機能を充実します。

③ レストハウス機能

コンパクト化により公園敷地に転換する東・西エリアにあるレストハウス機能・無料休憩所機能を西エリアに集約します。

3) 施設・設備のリニューアル

① メインスタンド耐震化

メインスタンドについては、平成19、20年度に緊急耐震補強工事を実施し、さらに、川崎市の「公共建築物(庁舎等)に関する耐震対策実施計画」に基づき、平成27年度末までにメインスタンドの耐震強度をCランク(震度6強～震度7程度の地震発生時に倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。)に上げる必要があります。

そのため、競輪場再整備の一環として、現在、使用しているメインスタンドの耐震化を実施します。

② 新選手管理棟の建設

検車場、選手控室、トレーニングルームなどを有する選手管理棟を、現在地からバックスタンド寄りの場所に移設します。

新選手管理棟の建設により、高収益を見込める特別競輪のG Iレース開催が可能な環境を整え、G Iレースの招致を進めます。

なお、選手宿舎については、平成11年建築の幸区小向西町にある既存宿舎を再整備後も引き続き使用していきます。

③ 太陽光発電を利用した照明設備の設置など

競輪場内のオープンスペースに太陽光発電を利用した照明設備を設置し、緑化を推進するなど、環境に配慮した施設づくりを進めます。

④ 東サイドスタンド

富士見公園に敷地の一部を転換することに伴い、サイドスタンド下部にある飲食店を西エリアへ移転し、空きスペースを備蓄用倉庫などに利用します。

⑤ 西サイドスタンド

既存のサイドスタンドを解体し、西エリアの新施設に連結した施設として、新たに整備を行います。1階には、公園利用者が立ち寄れるように飲食店を配置し、2階には立見席(収容人員約300人)を設けます。

⑥ バックスタンド・西3号投票所・シアター席

再整備後もバックスタンドは既存のまま使用します。

また、西3号は、当面の間は現状のまま、前売投票所、シアター席として活用し、公園の整備時期と歩調をあわせて公園側からも利用できる機能を有し、かつ、競輪事業でも活用する施設として、公園のエントランスやバスロータリーと一体的に整備することを検討していきます。

⑦ 駐輪場・駐車場

競輪場来場者用の駐輪場を、富士見通りに面した東エリアに新たに設けます。

また、駐車場については、現在使用している競馬場馬場内駐車場を引き続き使用するとともに、南エリアに駐車場を適切に整備します。

⑧ 管理用道路

東投票所や選手食堂など、東エリアにある既存施設を除却し、競輪選手が宿舍との往復に使用するバスや、救急車などの緊急車両が通るために必要である管理用道路を、東サイドスタンド横に富士見通りからアクセスする形で設けます。

4) 競輪場のアメニティの向上

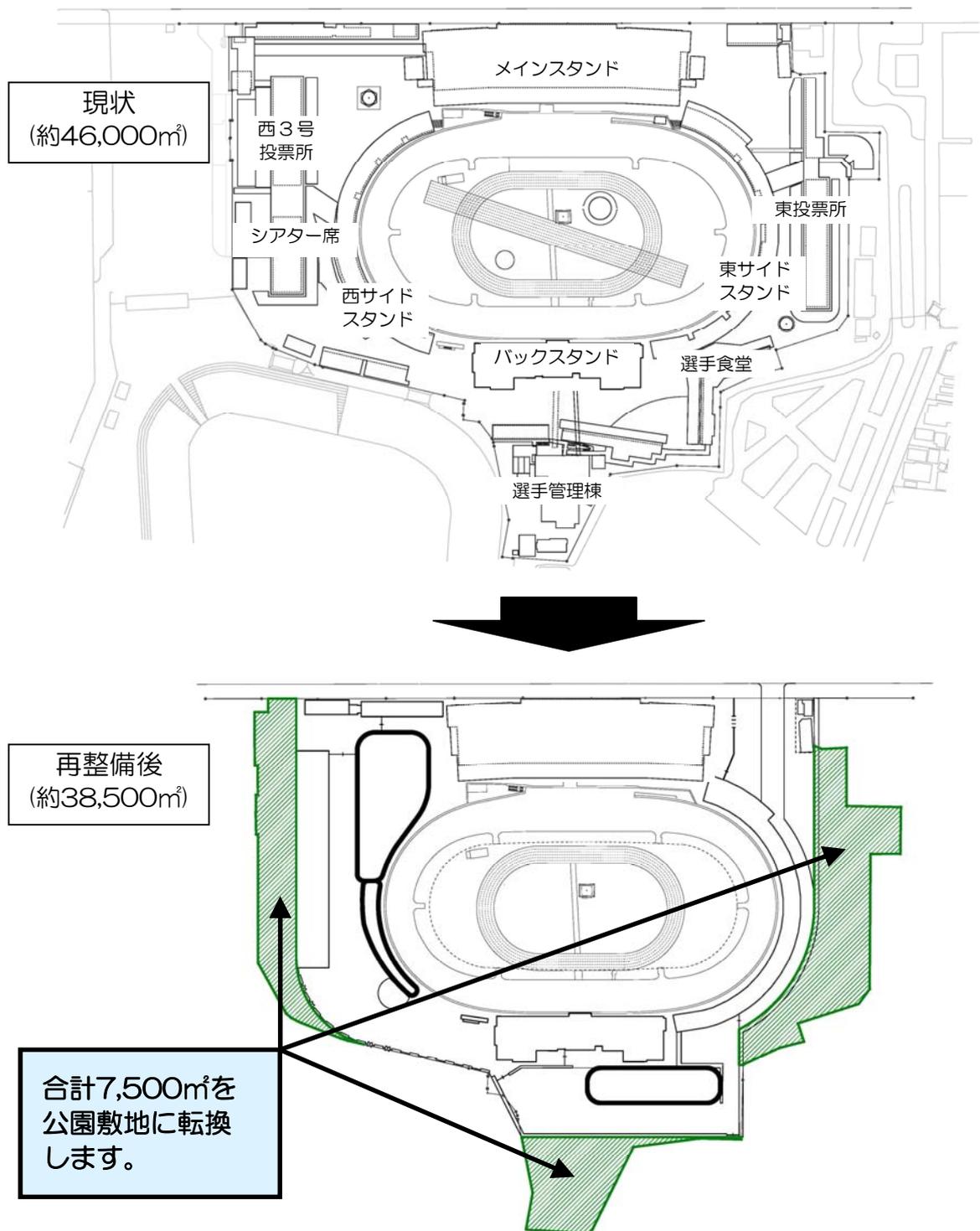
女性や若者を含めた市民が気軽に立ち寄れる川崎競輪場となるため、再整備を実施し、公園との間に空間連続性を感じられるような境界の整備や、公園のレストハウス機能を有する新施設の整備等を行っていく中で、エスカレーターの設定等場内のバリアフリー化、女性向けのトイレや冷暖房の整った施設の充実、環境美化等、競輪場施設のアメニティの向上を図ります。

※ 再整備による主な撤去施設

- 投票所(東・西エリアの約120窓口)
- 飲食店(東・西・南エリアの20店舗)
- 正門
- 指定席券売場(メインスタンド3階・バックスタンド・シアター席)
- レストハウス(東・西エリアの約300席)
- 屋外無料休憩所(東・西エリアの約700席)
- トイレ(東・西エリアの約110基)
- 選手管理棟

(3) 再整備後の競輪場施設配置の変化

競輪場再整備の基本方針及び施設の考え方により、東・西・南の各エリアの施設を集約し、競輪場敷地の一部(約7,500㎡)を公園敷地に転換することから、再整備後の競輪場敷地は、現在の約46,000㎡から約38,500㎡となります。

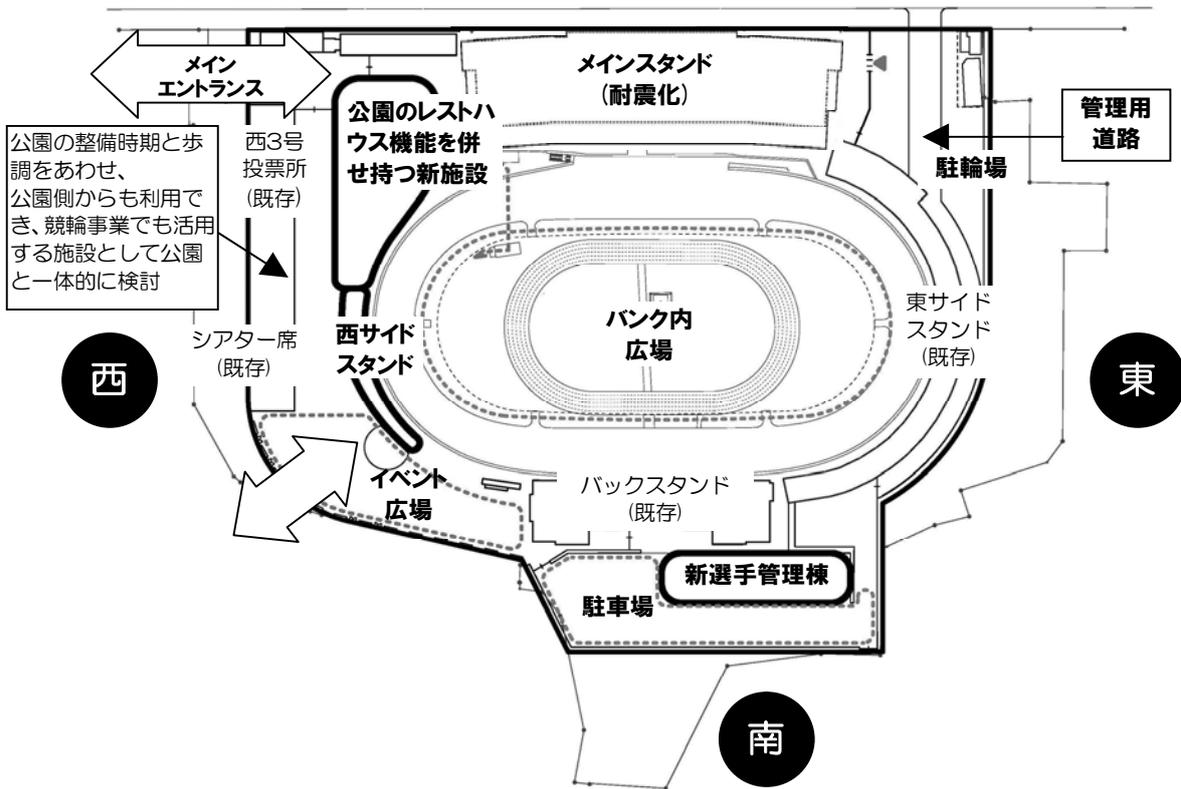


また、再整備後の競輪場の施設配置は次のようになります。

現在の競輪場の基本的機能
 (1) 収容人員約**51,000**人 (2) 投票所窓口**300**窓 (3) 飲食店数**20**店舗



再整備後必要な競輪場の基本的機能
 (1) 収容人員約**20,000**人 (2) 投票所窓口**250**窓 (3) 飲食店数**20**店舗



再整備により、現在約51,000人となっている競輪場の収容人員は、次のように、約20,000人となります。

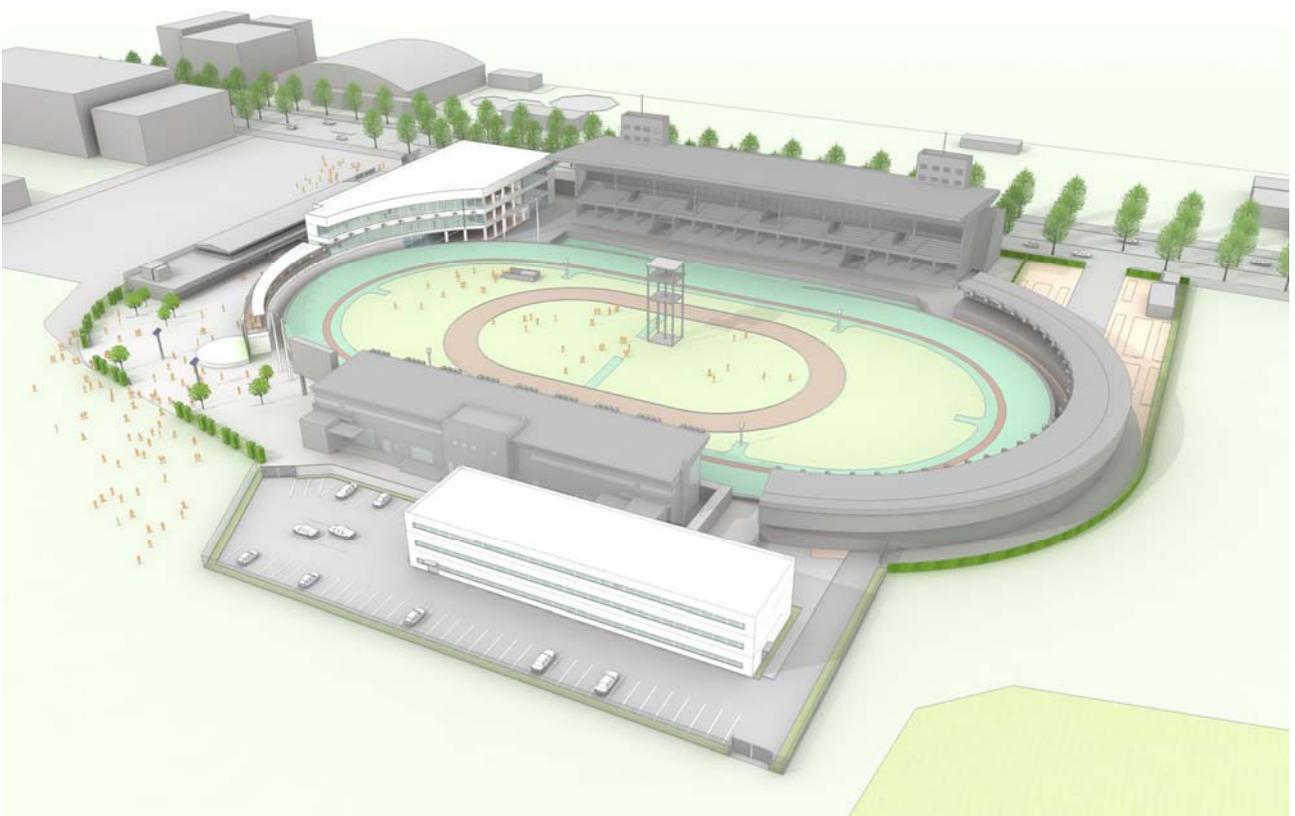
○コンパクト化後の競輪場の収容人員

既存施設	メインスタンド	約9,500人	約13,650人	約20,000人
	バックスタンド	約280人		
	東サイドスタンド	約2,000人		
	シアター席・屋外部分	約1,870人		
新施設	公園のレストハウス機能を併せ持つ新施設	約5,400人	約6,350人	
	西サイドスタンド	約300人		
	イベント広場	約650人		

※ バンク内広場(約900人程度収容)は、本場開催時の来場者入場を想定していないため、収容人員から除外しています。

(4) 再整備後の競輪場のイメージ

『Ⅰ. 公園との一体感を感じられる空間づくり』、『Ⅱ. 持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり』の2つのメインコンセプトに基づき、第1段階のコンパクト化後の川崎競輪場を次のイメージのような空間として整備していきます。



○長方形競技場側からのイメージ



○現在の川崎競輪場

4. 市民利用について

- 市民向けの多様なイベントの開催
(例)カワサキハロウィンなどの大規模イベントとの連携
「音楽のまちかわさき」などと連携した大規模イベント・屋外コンサートなど
- バンク内の芝生広場の開放
・子どもの遊び場、イベント会場としての利用が可能
- 市民の健康増進への取組
・新選手管理棟のトレーニングルームの市民利用の検討
- 市民利用と競輪事業運営の調整

川崎競輪場は現在も市民祭りや中小企業大運動会などに利用されていますが、競輪場再整備に当たっては、公園のレストハウス機能を併せ持つ新施設や常設ステージのあるイベント広場、そしてバンク内の芝生広場の整備を進め、多目的な市民利用の推進を行っていきます。



○西エリアのイベント広場 イメージ

(1) 市民向けの多様なイベントの開催

競輪場の再整備により、富士見公園と一体的に活用できる常設ステージのあるイベント広場の設置や、バンク内の芝生広場を整備し、これらの施設とスタンドなどとの一体的な運用を行うことにより、場外発売日や非開催日には、「音楽のまちかわさき」や「映像のまちかわさき」などと連携した、大規模イベントや屋外コンサートの開催が可能になります。

さらに、市民祭りの充実、フリーマーケットの開催、駅前で実施しているカワサキハロウィンや阿波踊りなどと連携した取組などの実施が可能となります。



○市民祭り



○カワサキハロウィン



○ナイト開催時のキャラクターショー

(2) バンク内の芝生広場の開放

現在も、バンク内には200mの陸上トラックがありますが、噴水等の設備を配置していることから、使い勝手が良いものではありませんでした。

競輪場再整備を行う中で、噴水、直線走路、植栽を除却し、バンク内を200mトラックのある芝生広場として整備することにより、場外発売日の土日に子供の遊び場として開放し、非開催日には運動会やコンサートなどの開催も可能となります。



○バンク内を利用して開催されている
中小企業大運動会

(3) 市民の健康増進への取組

競輪選手は、レースがない日も次のレースに備えて、バンクや選手管理棟内のトレーニングルームを使用して練習をしていますが、新選手管理棟では、選手の練習時間との調整を進めることにより、トレーニングルームの市民利用について検討します。

また、バンクやトレーニングルームを利用した、自転車教室など市民向けのイベントや自転車競技大会などによる競輪場施設の活用を通じて、市民の健康増進、サイクルスポーツの普及に取り組みます。

(4) 市民利用と競輪事業運営との調整

競輪場の市民利用の実施に当たっては、競輪開催日や地元競輪選手の練習時間との調整を図っていく必要があります。

例えば、イベント広場の市民利用については、川崎競輪場で実際にレースを行っている日や、多くの来場者が見込まれる特別競輪のG I レースなどの大規模開催の場外発売日などと実施日を調整する必要があります。

また、地元競輪選手の練習時間や安全面などを考慮し、バンク内広場や新選手管理棟の市民利用については、競輪選手がバンクやトレーニングルームを使用しない時間の調整やセキュリティの確保など、今後、その利用方法について検討を進める必要があります。

競輪場の市民利用の実施に当たっては、競輪開催や関係者との調整を踏まえた上で、積極的に行っていきます。

5. 再整備後の競輪事業運営について

- 競輪場再整備の実施による収益力向上で、平成30年度以降も、年平均で約3.5億円の収益が見込まれます。
- この事業収益により、「将来のコンパクト化」に向けた基金積立と、一般会計への繰出を行います。

(1) 再整備による経営体質強化

1) 再整備による経費節減…平成28年度から節減

収容人員約51,000人規模の施設を、現在の集客力に応じ収容人員約20,000人規模に再編して効率化することにより、清掃費、警備費や施設の維持補修費が節減できます。

さらに、施設の最適化と機能の集約化に伴い、事業運営体制を見直すことにより運営管理費の節減にも努めます。

2) 場外発売の積極的展開による収益向上…平成23年度から

場外発売の積極的展開により、平成21年度に約3.3億円ある場外発売による収益の向上を図ります。

また、再整備後は、来場者数の変化に対応し、投票窓口を弾力的に運用することにより経費の節減が可能となります。

なお、場外発売の積極的展開は、横浜市にある花月園競輪場の平成21年度末の廃止に伴い、平成23年度から積極的に取り組みます。

(2) 競輪場の魅力の維持・向上

1) 新規ファン取り込みによる入場者数の増

交通アクセスや飲食店の魅力など既存の魅力の維持・向上や、来場者への居心地の良い観戦環境の提供とともに、魅力と活気あふれた施設としてサイクルスポーツによる賑わいを創出する取組を通じて、既存ファンのみならず若者などの新規ファンを増加させます。

2) 高収益を見込める特別競輪開催に伴う収益力の向上

新選手管理棟を整備することにより高収益が見込まれる、特別競輪(G I・G IIレース)開催を招致し、川崎競輪場の収益力・ブランド力を向上させます。

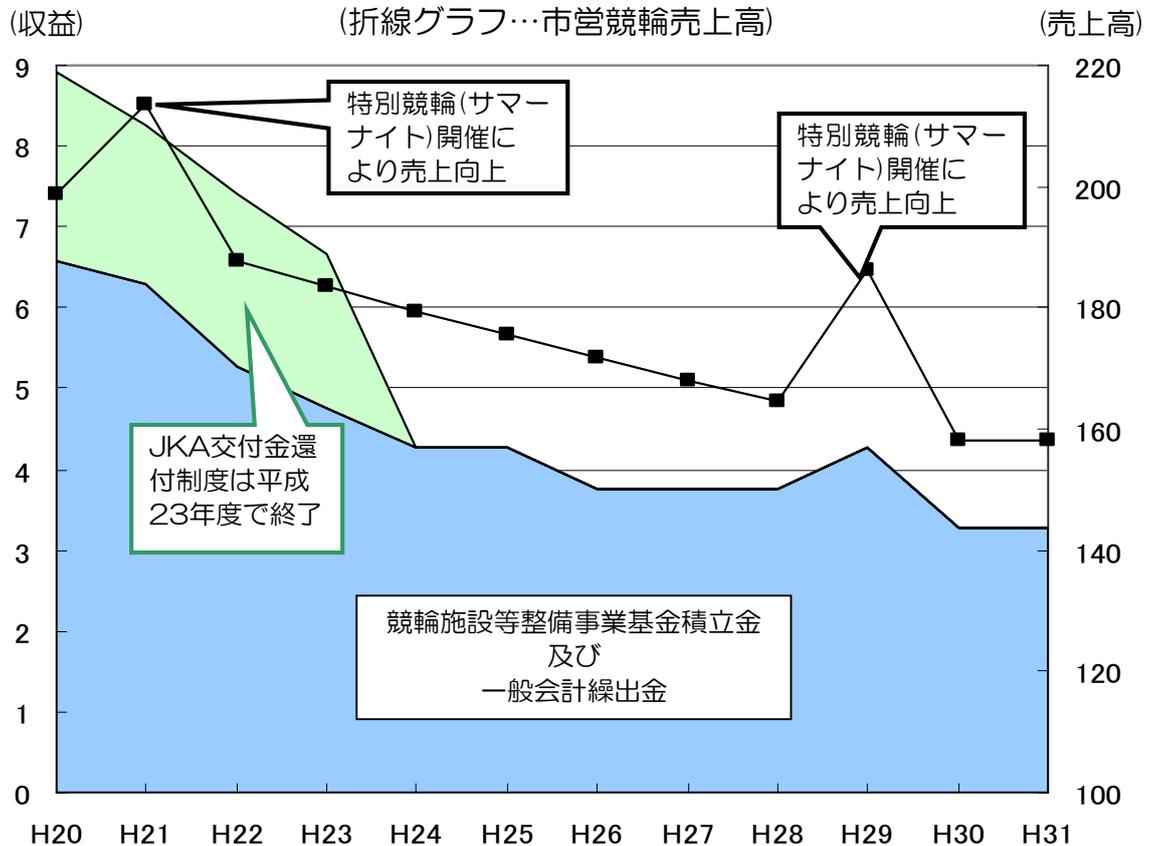
(3) 再整備後の収益見通し

競輪事業を取り巻く経営環境は非常に厳しく、車券売上は低迷が続いていますが、再整備による経費節減や場外発売の積極的展開を行うことから、再整備後の平成30年度以降は、年度平均約3.5億円の収益が見込まれます。

この収益については、今後も一般会計繰出を行い川崎市の財政に貢献し続けるとともに、「将来のコンパクト化」など、今後の施設整備のために基金積立を行います。

なお、(財)JK A交付金の還付制度(年2億円程度還付)は、平成23年度に終了しますが、現在、(財)JK A交付金の見直しなどについて全競輪施行者が国に要望をしているところです。

売上・収益の予測 (単位：億円)



- ・平成28年度までの市営競輪売上高の予測については、平成12年度から平成21年度までの1日あたり平均売上高の平均減少率2.4%で売上高が減少するものと見込んでいます。
- ・平成30年度以降は、再整備の効果や競輪事業の活性化策の効果を含み、収益等について横ばいで推移するものと見込んでいます。
- ・平成22年度から平成30年度まで、約37億円のさらなる一般会計繰出及び基金積立が見込まれます。

6. 「第1段階のコンパクト化」整備のスケジュール及び財源

- 「第1段階のコンパクト化」に伴う整備は平成28年度末の完了をめざします。
- 競輪場再整備は、競輪施設等整備事業基金の範囲内で行います。
- 再整備の各段階において、大規模集客施設としての安全性に配慮していきます。

(1) 再整備のスケジュール

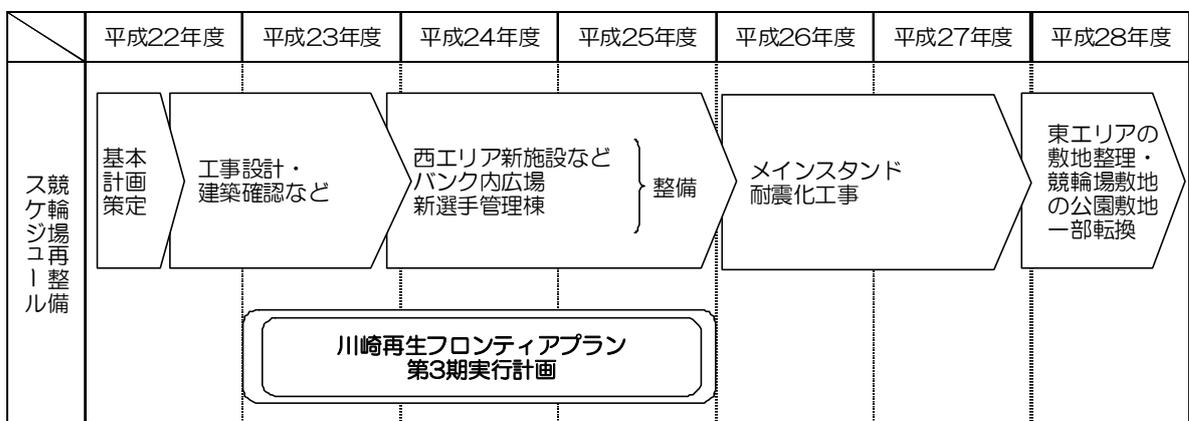
競輪事業を取り巻く経営環境は非常に厳しく、車券売上は低迷が続いていますが、「川崎競輪場再整備基本計画(素案)」についてのパブリックコメントの結果を踏まえた上で、「川崎競輪場再整備基本計画」を平成22年度中に策定します。

この基本計画に基づき、川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画と連携し、再整備については、平成25年度末を目途に公園のレストハウス機能を併せ持つ新施設やイベント広場など西エリアの整備や新選手管理棟などの整備を実施し、平成27年度末までにメインスタンド耐震化工事を完了します。その後、東側区域の施設除却や競輪場一部敷地の公園敷地転換などを行い、平成28年度末を目途に「第1段階のコンパクト化」をめざします。

また、西エリアの西3号については、当面の間は現状のまま活用し、富士見公園の整備時期と歩調をあわせ、公園利用者が富士見公園側からも利用できる機能を有し、かつ、競輪事業でも活用する施設として、公園のエントランスやバスロータリーと一体的に整備することを検討していきます。

なお、工事実施に当たっては、競輪事業を開催しながらの工事実施になることから、再整備の各段階において大規模集客施設としての安全性に配慮し、施設の解体順序などの工事スケジュールや工事車両動線などの設定を行っていきます。

※競輪場再整備スケジュール



(2) 再整備の財源

「公園との一体感を感じられる空間づくり」と「持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり」の2つのコンセプトの実現に向けた、第1段階のコンパクト化に必要な費用については、川崎競輪場が施設整備などのために競輪事業収益から積み立てている基金(「競輪施設等整備事業基金」)の範囲内で行い、一般会計からの支出は行いません。

なお、競輪施設等整備事業基金は「競輪施設等の整備事業の資金に充てる」ため、平成9年度の設置以来、競輪事業で積み立てているものであり、その新規積立額及び残高見込額は次のようになっています。

◎ 競輪施設等整備事業基金の新規積立額及び残高見込額

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度 (見込)
新規積立額	2.9 億円	4.0 億円	5.5 億円	5.5 億円	4.0 億円
基金残高	36 億円	40 億円	45 億円	51 億円	55 億円

7. 将来のコンパクト化

- 現在地での第1段階のコンパクト化を実施することにより、経営体質の強化と、持続可能な運営体質の確立を推進し、全国トップクラスの競輪場としての地位を維持することが可能となります。
- (財)JK A交付金の見直しなど競輪事業制度の方向性を見極めるとともに、事業環境の変化を見据えた川崎競輪の検証を行うなど、持続的な競輪事業の運営について継続的に検討していきます。
- 「将来のコンパクト化」の実施においては、第1段階のコンパクト化で耐震化されたメインスタンドを新たに建て替えるなど「さらなるコンパクト化」を進めることにより、敷地の公園区域への転換面積を増やします。
- メインスタンド建替えに当たっては市民の多目的利用の推進を図ります。
- 「将来のコンパクト化」については、まちづくりの視点や長期的展望を視野に入れた将来の競輪場のあり方を踏まえて検討していきます。

川崎競輪場は、その立地の優位性などにより1日当たりの売上高(全国第3位)と入場者数(全国第2位)において全国トップクラスの競輪場であり、現在地で第1段階のコンパクト化を実施することによって、経営体質の強化と持続可能な運営体質の確立を推進し、厳しい経営環境の中においてもこれまでと同様に全国トップクラスの競輪場としての地位を維持することが可能となります。

また、全国の競輪施行者及び国・(財)JK A(競輪振興法人)をはじめとした競輪関係者による競輪事業活性化に向けた取組が行われ、さらに新たなファン層の拡大に向けた計画も検討されており、これらの成果も期待されます。

しかしながら、平成20年のリーマン・ショックなど社会経済情勢の変化のスピードは早く、その変化の影響を、競輪を含めた公営競技は大きく受けていますので、(財)JK A交付金の見直しなど競輪事業制度の方向性を見極めるとともに、事業環境の変化を見据えた川崎競輪の検証を行うなど、持続的な競輪事業の運営について継続的に検討していきます。

さらに、「将来のコンパクト化」の実施においては、財源や法的規制の課題を解決する必要がありますが、第1段階のコンパクト化で耐震化されたメインスタンドを新たに建て替えるなど「さらなるコンパクト化」を進めることにより、敷地の公園区域への転換面積を増やします。

また、メインスタンドの建替えに当たっては市民の多目的利用の推進を図るとともに、「将来のコンパクト化」については、まちづくりの視点や長期的展望を視野に入れた将来の競輪場のあり方を踏まえて検討していきます。

8. 今後の事業スケジュール

- 「川崎競輪場再整備基本計画(素案)」について、パブリックコメント手続を経て「川崎競輪場再整備基本計画」として策定しました。
- 「川崎競輪場再整備基本計画」に基づき、競輪場の再整備を進めていきます。

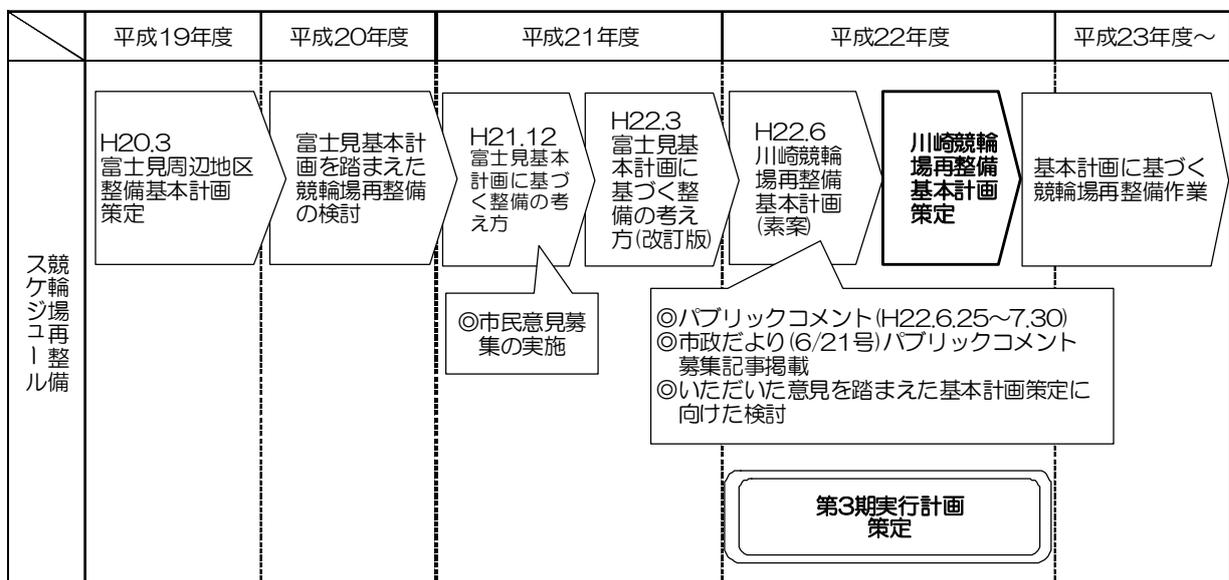
この「川崎競輪場再整備基本計画」は、平成20年3月に策定した「富士見周辺地区整備基本計画」及び平成22年3月に取りまとめた「富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方(改訂版)」の内容を踏まえ、取りまとめたものです。

「川崎競輪場再整備基本計画」の策定に当たっては、平成22年6月に策定した「川崎競輪場再整備基本計画(素案)」について平成22年6月25日から7月30日までパブリックコメント手続を実施し、市政だより、市ホームページ、区役所、市民館などで周知をさせていただきました。

そして、パブリックコメント手続でいただいた御意見について検討を行うとともに、「川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画」の策定作業に合わせた検討・調整を併せて行い、この「川崎競輪場再整備基本計画」として取りまとめたものです。

今後は、「川崎競輪場再整備基本計画」に基づき、競輪場の再整備を進めていきます。

これまでの取組と今後の事業スケジュールは、次のとおりです。



いただいた御意見等への対応は、市ホームページなどで公表しています。

川崎競輪場再整備基本計画

2010年(平成22年)9月

川崎市

(お問合せ先)

経済労働局公営事業部

電話：044-233-5501

FAX：044-233-8262

E-mail 28ksoumu@city.kawasaki.jp